

一般質問通告書

令和 7年 2月 26日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 15 番 廣部 真造

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
②. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1) 発言事項	地域公共交通の充実について
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
<p>高島市の地域公共交通は、JR湖西線を主軸として路線バス、コミュニティバス等により成り立っています。地域公共交通は、市民生活を支える移動サービスの継続的な提供を目的としています。これらの事は、昨年に策定された高島市地域公共交通利便増進実施計画に明記されています。この計画は、令和6年度から令和10年度までの5年間のものであります。その中でも指摘されているように、運転士不足が懸念材料として明記されております。</p> <p>先日、民間事業者から運転士の確保が極めて厳しい状況にあることを聞きました。また、民間企業であり企業全体として、限られた人員による利益を追及する必要性も伺いました。高島市地域公共交通利便増進実施計画は5年間の計画であります、各種の取り組みを前倒しにする必要があると考えます。さらに、取り組む内容も地域ごとの事情やニーズに合わせて計画内容も再考する必要があると考えます。</p> <p>そこで、地域ごとの事情の一つとしてお話をさせていただきます。</p> <p>JR近江高島駅と旧高島町の最西端の畑地区を結ぶバス路線についてです。この路線では、県道畑勝野線にバス停が設置されております。山間の富坂地区から畑地区ま</p>	

での間は、県道から深く入り込んでいる道沿いに集落があります。しかも何れの地区も山間地区のため道路は坂道となっています。バスを利用される皆様は、ご自身で移動手段をお持ちでないご高齢の方が大半であります。バスを利用するには、自宅からバス停のある県道まで坂道を往復する必要があります。手荷物がある際には、非常に負担が大きいと訴えておられます。確かに、ご高齢の方には大変な負担を強いている現状があると言えます。

このバス路線沿いにある鹿ヶ瀬地区、黒谷地区、畑地区も同じ事情であります。その中でも、最も過酷なのが畑地区であります。棚田百選で有名であることから、傾斜地に集落が広がっていることは想像しやすいと考えます。畑地区のバス停は、その地域の最低部に設置されています。そのため、バス停と自宅は急な坂道の移動を強いられます。バス停と最上部の民家との標高差は約100メートル、移動距離が830メートルです。同様に他の類似地区の現状は次の通りです。富阪地区では標高差約50メートル、移動距離が1キロメートル、鹿ヶ瀬地区では標高差約80メートル、移動距離が1.3キロメートル、黒谷地区で標高差約50メートル移動距離が630メートルです。

これらの地域住民のニーズに対応するためには、県道から集落へ入り込んで運行する交通手段が必要であります。その方法は、乗り合いタクシーや小型車両での路線バス等の組み合わせが考えられます。

私は、高島市地域公共交通利便増進実施計画には当初予想していた時間的な猶予がますます無くなってきたと考えます。一日でも早く、具体的に取り組む必要があると考えます。加えて、取り組む内容も地域ごとの事情やニーズに合わせて計画内容も再考する必要があると考えますが、見解を伺います。